

委員会質疑要約

議案第2号について

Q コンビニでの印鑑証明の発行は、いま持っている住基カードではできないのですか。

A すでにお持ちいただいているカードでは、コンビニでの発行はできません。一度、市役所に来ていただいてカードに書き込みをしていただかないと使えません。

Q 市役所や出張所で、従前どおり証明書を発行してもらうだけなら、書き込みの必要はないのですか。

A そのとおりです。手数料についていかがいます。

A 普及促進という面から考えると、何かしらメリットがないと発行枚数は増えないと思うので、今後の課題とさせていただきます。

Q 電算業務が山武市の独自処理になることで、行政組合に今まで負担していた金額は、どのくらい変わるのですか。

A 2千500万円程度、減額になると見込んでいます。なお、これによって意思決定の速度が速くなったり、事務の効率化の点からも費用負担が減るなどがあげられると思います。

文教厚生常任委員会

12月8日開催

付託案件と審査結果

- 議案第3号（原案可決）
- 議案第4号の一部（原案可決）
- 議案第6号（原案可決）
- 議案第7号（原案可決）
- 陳情第2号（不採択）
- 陳情第3号（不採択）
- 陳情第4号（不採択）

決算審査
特別委員会

10月6日と7日の2日間にわたり、決算審査特別委員会を開催しました。

《委員長報告概要》

委員会では、①適正に予算が執行されているか。②期待した行政効果が得られているか。③今後、改善を要する点は何か。④監査委員からの決算審査意見書の内容をどのように受け止めているか。などに主眼を置き、慎重に審査を行いました。付託された9議案は、委員

8名全員賛成で認定すべきものと決定しました。なお、平成22年度の一般会計歳入歳出決算の概要は、歳入決算額236億4千551万5千円、歳出決算額222億5千105万4千円、歳入歳出差引額13億9千446万1千円でした。このうち翌年度に繰り越すべき財源1億2千571万1千円を差引いた実質収支額12億6千875万

8億円を財政調整基金へ積み立て、4億6千806万7千円を平成23年度へ繰り越しました。

繰り越すべき財源の内訳は、繰越明許9千14万6千円、事故繰越し3千556万5千円、理由として、繰越明許は、国の平成22年度の補正予算で、円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策の「きめ細かな交付金」

「光をそそぐ交付金」の2つの交付金を使った事業について補正予算で計上した関係で、平成22年度中の執行が間に合わな

いということでした。事故繰越については、3月11日の大震災により、工期が間に合わなくなったことにより事故繰越をしたことが大きな理由でした。

また、企業会計を除く国民健康保険特別会計など7特別会計の歳入決算額は13億9千224万4千円、歳出決算額は13億2千133万5千円でした。

歳入歳出差引額は6億8千840万9千円でした。

平成22年度各会計歳入歳出決算(平成23年第3回定例会 議案第12号から第20号認定)

区 分		歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計		236億4,551万円	222億5,105万円	13億9,446万円
区 分		歳入決算額	歳出決算額	差引額
特別会計	国民健康保険	73億4,533万円	68億8,855万円	4億5,678万円
	事業勘定 施設勘定	1億5,019万円	1億3,599万円	1,420万円
	老人保健 後期高齢者医療	153万円	153万円	0円
	介護保険	3億7,915万円	3億7,685万円	230万円
	組合立国保成東病院事業清算事務	34億6,581万円	34億6,157万円	424万円
	農業集落排水事業	20億1,908万円	18億1,862万円	2億46万円
	地方独立行政法人さんむ医療センター公債管理	2億3,299万円	2億2,257万円	1,042万円
	3億815万円	3億815万円	0円	
区 分		決算額		
企業会計 (水道事業会計)	収益的収入	3億9,259万円		
	収益的支出	3億4,137万円		
	資本的収入	1,393万円		
	資本的支出	1億4,825万円		

